

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス unico北九州		公表日	2026年4月14日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		月に1回以上、職員間ですり合わせの時間を設けております。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様からの評価表を職員全体で共有し業務改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月に1、2回程度で時間を設け、業務改善に努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	年に2回、本社職員により実地指導と同等の監査を実施し、改善につなげております。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間を通して計10回の社内研修を実施しております。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		送迎時だけでなく半年に1回以上、保護者様と対面もしくはお電話での面談を行ったうえで、作成しております。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		半年に1回～2回程度で、保護者様も含めて情報共有いただき、職員間での意見交換を行い認識をそろえております。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		毎日の振り返りと月に1回程度で支援内容のすり合わせの時間を作っております。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新生児に関する聞き取りは小学校へ引き継がれた情報のみ把握しております。細かい共有ができるよう改善に努めてまいります。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	今後検討の上、改善に努めてまいります。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		適宜面談等を通し、支援もしくは内容によっては関係機関へつなぐ連携を取らせていただいております。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催することにより、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		今後、保護者様同士の関係性も作れるような行事も提案させていただこうと思います。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動内容を写真とともに各ご家庭へ利用時に発信しており、SNSの情報を共有させていただいております。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		年に1度情報の更新を行い、確認させていただいております。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーを口にする機会がないようにしており、対応の機軸は現時点ではありませんが指示書は確認させていただいております。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		危険物の取扱いや管理方法に関して職員で認識をそろえ、日々連携を取りながら支援させていただいております。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico北九州			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数)	23名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域を横断的に体験できる充実した活動機会の提供	季節の行事や合同イベント、外出ワークショップなどの参加や素材の提供で子どもたちが選べるを意識した毎日のワークショップを実施しています。	地域イベントにも積極的に参加し、地域とのつながりの創出も図ってまいります。
2	保護者様や関係各所との密な連携	電子連絡帳を通した日々のお子様の様子の共有だけでなく、送迎時に対面で共有を行ったり、半年に一度対面にて面談を行い、日々の様子やどのような支援を今しているのかの認識を合わせたうえで、支援計画の作成も行ってまいります。また、相談支援員さんや学校、併用事業所との連携も行い、横のつながりを大切にし支援を行ってまいります。	日々の申し送りや連絡帳アプリ等を通して、保護者さまにより詳細な情報を常に共有するよう心がけます。日頃からお子さまの変化やニーズを関係各所へ共有し、ご希望があれば関係各所との担当者会議等の提案や図ってまいります。
3	お子さま自身で考え自信をもって選択決定することを尊重した支援アプローチ	お子さまとのコミュニケーションをする際に、自分で考え自分で決めることのサポートができるようコーチングをベースにした声かけや話し合いを行っています。	よりお子さまの気持ちに寄り添えるよう、職員間で子どもの情報や考え・気持ちをこまめに共有の上、研修や日々の支援の振り返りを徹底し、さらなるサポート体制の土台構築を図ってまいります

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	よりお子さまの個別のニーズに応えられる活動環境の提供	学習・運動・リラックスできる空間を設定し、お子さまが選択できるようにしておりますが、空間の設定に留まっております。	教室内の環境や個室をさらに活かした空間設定や教室外の環境探しなどを行い、より思い切り身体を動かせる場所の設定など特化した活動ができる提案も行ってまいります。
2	お子さまが一人ひとりが安心して過ごすことができる居場所づくり	お子さまの気持ちを傾聴する、自身の気持ちを安心して伝えられるような関わりが今以上に必要と感じております。職員間の連携不足もあり、支援が十分でない場面がありました。	社内外の研修に参加することでお子さま一人ひとりの発達や特性に合わせた、支援の質の向上を図ります。職員間の連携を密に行えるよう努めてまいります。
3	保護者様への支援および保護者様を巻き込んだ療育支援	お子さまへの療育支援に集中し、保護者様への連携も支援内容の報告に傾倒してまいりました。	保護者様との面談や関連機関を巻き込んだ会議への参加、保護者様同士でつながることのできる機会の創出も検討してまいります。